

白藍塾オリジナル

2024年度 入試小論文分析&解答のヒント

2024年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・看護医療学部

課題文は、情動と価値判断の関係について論じた文章。最初は「価値判断」や「価値的性質」といった用語を難しく感じるかもしれないが、きちんと論理を追っていけばわかるように書かれている。

わかりやすくまとめると、「多くの場合、情動（恐怖などの直感的・感情的な認識）よりも価値判断（「檻があるから安全」といった論理的・整合的な判断）のほうが正しいが、そうとは言えない場合もある。情動に合わせて価値判断を変えるには価値観の根本的な転換が必要なので難しいが、それができれば新たな自分になることができる」となるだろう。

問題1は、「情動と価値判断がどのようなもので、どのような関係にあるか」を説明する問題。これは、課題文が読み取れていれば問題なく書けるはずだ。ただし、400字と字数が多いので、具体例の部分も含めていねいな説明が必要だろう。

問題2は、情動と価値判断が対立する状況の具体例を挙げ、それに関する自分の考えを書く問題。設問の意図がややわかりにくいですが、課題文の内容を踏まえると、情動と価値判断のどちらも正しいと言えそうな例を挙げた上で、どちらを重視すべきかを論じるのが最も書きやすいだろう。

無理やり看護医療の問題とつなげる必要はないが、看護医療の勉強をしっかりとしてきた受験生にとっては、むしろそのほうが考えやすいはず。具体例としては、例えば余命わずかな難病にかかった患者に対して告知すべきかどうか、といった状況が考えられる。現代医療の考え方だと、当然「告知すべき」という判断（価値判断）が正しいが、「告知すべきではない」という情動的な反応が間違っているとも言い切れない。そうした状況を想定して、自分の考えを論じるとよい。

字数が少ない（300字）ので、最初に具体例を簡潔に示した上で、2部構成のA型（自分の考え＋理由の説明）でまとめればよいはずだ。

* 執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複製することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室（03-3369-1179） <https://hakuranjuku.co.jp>